

XII 花き類（非食用）

1. き く

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
11	アミスター20フロアブル	散布	発病初期	5回以内	
3	アンビルフロアブル	散布	発病初期	7回以内	
M2	クムラス	散布	-	-	
3	サプロール乳剤	散布	発病初期	5回以内	
31	スターナ水和剤	散布	-	5回以内	
11	ストロビーフロアブル	散布	発病初期	3回以内	
M5	ダコニール1000	散布	発病前～発病初期	6回以内	
3	チルト乳剤25	散布	発病初期	3回以内	
3	トリフミン乳剤	散布	-	5回以内	
19	ポリオキシシAL水溶剤	散布	発病初期	8回以内	(黒斑病は花き類・観葉植物登録)
3	マネーヅ乳剤	散布	発病初期	6回以内	
3	ラリー乳剤	散布	発病初期	5回以内	

・殺菌剤（参考農薬）

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
11	ストロビーフロアブル	散布	発病初期	3回以内	
M10	モレスタン水和剤	散布	発病初期	10回以内	花き類・観葉植物(カーネーションを除く)

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	アドマイヤーフロアブル	散布	発生初期	5回以内	(施設栽培)
1	オルトラン水和剤	散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物
-	オレート液剤	散布	発生初期～収穫前日まで	-	
1	オンコル粒剤1	植穴土壌混和	定植時	1回	
21	サンマイトフロアブル	散布	-	2回以内	
21	ハチハチ乳剤	散布	発生初期	4回以内	
UN	プレオフロアブル	散布	発生初期	4回以内	花き類・観葉植物
4	ベストガード水溶剤	散布	発生初期	4回以内	
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物(ストック、りんどうを除く)

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アーデント水和剤	散布	発生初期	5回以内	
3	アグロスリン乳剤	散布	発生初期	6回以内	
6	アフーム乳剤	散布	発生初期	5回以内	(オオタバコガは花き類・観葉植物登録)
11	エスマルクDF	散布	発生初期	-	
1	オルトラン粒剤	株元散布	発生初期	5回以内	
1	ガードホープ液剤	土壌灌注	生育期	2回以内	
15	カスケード乳剤	散布	発生初期	3回以内	
1	ガゼット粒剤	株元散布又は植穴土壌混和	定植時	3回以内	
20	カネマイトフロアブル	散布	-	1回	
13	コテツフロアブル	散布	発生初期	2回以内	
3	スカウトフロアブル	散布	-	5回以内	花き類・観葉植物(宿根かすみそう、グラジオラス、トルコギキョウ、りんどうを除く)
5	スピノエース顆粒水和剤	散布	発生初期	2回以内	
1	スミチオン乳剤	散布	-	6回以内	
4	ダントツ粒剤	生育期株元散布	発生初期	4回以内	

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
10	ニッソラン水和剤	散布	-	2回以内	花き類・観葉植物
21	ピラニカEW	散布	発生初期	1回	
28	フェニックス顆粒水和剤	散布	発生初期	4回以内	
4	ベストガード粒剤	生育期株元散布	発生初期	4回以内	
4	モスピラン粒剤	株元散布	生育初期	1回	
18	ロムダンフロアブル	散布	発生初期	5回以内	

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
 注4) 蚕毒・魚毒については、「28. 花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
わい化病 (CSVd) (O)	植 付 前	1. 無病苗を使用する。 2. 3年以上の連作を避ける。 3. 発病後は必ず品種を更新する。	1. 摘蕾や切り花作業時に、接触、刃物により汁液伝染する。
えそ病 (TSWV) 茎えそ病 (CSNV) (V)	植 付 前	1. 無病苗を使用する。	1. いずれのウイルスもアザミウマ類により媒介される。 2. 両病害の病徴は類似しているが、TSWVには簡易診断キットが市販されているので、それを用いて診断可能である。
	生 育 期 間	1. ウイルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、育苗時の感染に厳重注意する。 2. アザミウマ類の飛来・増殖を徹底的に阻止する。ハウスの開口部を防虫ネット（0.4mm目合い）で被覆すると侵入を軽減できる。また、アザミウマ類の項、又は「25. 花き類・観葉植物」の項を参考に、定期的に殺虫剤を散布する。 3. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので除草する。 4. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に抜き取り埋却する。	
白さび病 (F)	育 苗 期 間	1. 発病葉は見つけ次第除去する。 2. サプロール乳剤1,000倍液を散布する。 3. ほ場衛生の向上に取り組む。	1. 育苗中の薬剤防除は予防に重点をおく。 2. 地下芽（うど芽）を用いる。
	ほ 場 期 間	1. 多発ほ場では、連作を避ける。 2. アンビルフロアブル、サプロール乳剤、トリフミン乳剤、マネージ乳剤の1,000倍液、アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブルの2,000倍液、ポリオキシンAL水溶剤2,500倍液、チルト乳剤25、ラリー乳剤の3,000倍液のいずれかを発生初期から2～3回10日おきに散布する。 3. クムラス300倍液を散布する。	1. 耐性菌の出現を避けるため、特にDMI剤（サプロール、トリフミン、ラリー、チルト25、アンビルフロアブル、マネージ）の連用はしない。 2. チルトは野菜にかかると薬害を生じる恐れがあるので注意する。 3. QoI剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。 4. マネージは黒さび病にも発病抑制効果がある。
黒さび病 (F)	育 苗 期 間	1. 発病葉は見つけ次第除去する。 2. ほ場衛生の向上に取り組む。	1. 育苗中の薬剤防除は予防に重点をおく。 2. 地下芽（うど芽）を用いる。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
黒さび病 (F)	ほ場期間	1. 多発ほ場では、連作を避ける。 2. 罹病茎葉は早めに摘み取り、まん延を防止する。	
黒斑病 (F)	ほ場期間	1. 発病葉は見つけ次第除去する。 2. ほ場衛生の向上に取り組む。 3. ほ場内の風通しを良くする。 4. ダコニール1000の1,000倍液、ポリオキシンAL水溶剤2,500倍液のいずれかを散布する。 [参考農薬] 1. ストロビーフロアブル2,000～3,000倍液を散布する。	1. QoI剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。
うどんこ病 (F)	育苗期間	1. 苗は無病株から採取する。	
	ほ場期間	1. 発病が見られたら通風を良くすることに努める。 2. 窒素過剰にならないようにする。 [参考農薬] 1. モレスタン水和剤2,000～3,000倍液を散布する。	
斑点細菌病 (B)	生育期間	1. 発病葉は見つけ次第除去する。 2. ほ場衛生の向上に取り組む。 3. ほ場内の風通しを良くする。 4. スターナ水和剤1,000倍液を散布する。	
アブラムシ類 (ウイルス媒介)	定植時	1. オンコル粒剤1を1株当たり0.25g植穴土壌混和する。 [参考農薬] 1. ガゼット粒剤を1株当たり2g株元散布又は植穴土壌混和する(ただし、10a当り18kgまで)。	1. 軟弱徒長苗、高温乾燥期は、薬害のおそれがあるので使用しない。
	生育期間	1. 挿芽は無病株から選ぶ。 2. オレート液剤100倍液、オルトラン水和剤、ハチハチ乳剤、ベストガード水溶剤の1,000倍液、アドマイヤーフロアブル2,000倍液、モスピラン顆粒水溶剤4,000倍液のいずれかを散布する。 [参考農薬] 1. モスピラン粒剤を1株当たり0.5～1g、ダントツ粒剤を1株当たり1g、ベストガード粒剤を1株当たり1～2g、オルトラン粒剤を10a当り3～6kgのいずれかを株元散布する。 2. アーデント水和剤1,000倍液、スミチオン乳剤1,000～2,000倍液、アグロスリン乳剤2,000倍液、スカウトフロアブル2,000～3,000倍液のいずれかを散布する。	1. オレートは昆虫の気門を塞いで窒息させ殺虫するので、虫体に直接かかるように5～7日間隔で2回散布する。 2. アグロスリン、スカウトは蚕毒及び魚毒に、アーデント、アドマイヤー、ハチハチ、モスピランは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 3. アドマイヤーは施設栽培に限る。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
アザミウマ類	生 育 期 間	1. オルトラン水和剤 1,000 倍液を散布する。 [参考農薬] 1. オルトラン粒剤を 10a 当り 3～6 kg 株元散布する。 2. アファーム乳剤 1,000 倍液、又はスピノエース顆粒水和剤 5,000 倍液を散布する。	1. アザミウマ類は、着蕾期から防除を徹底する。 2. アファーム、スピノエースは蚕毒に特に注意する(特別指導事項 参照)。
ミカンキイロアザミウマ	生 育 期 間	[参考農薬] 1. アーデント水和剤 1,000 倍液、又はカスケード乳剤 2,000 倍液を散布する。	1. アーデント、カスケードは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
ハダニ類	5月下旬～ 9月上旬	1. サンマイトフロアブル 1,000 倍液を散布する。 [参考農薬] 1. カネマイトフロアブル 1,000～1,500 倍液、ピラニカEWの 1,000～2,000 倍液、コテツフロアブル 2,000 倍液、ニッソラン水和剤 2,000～3,000 倍液のいずれかを散布する。	1. 乾燥期に多発する。
オオタバコガ	生 育 期 間	1. プレオフロアブル 1,000 倍液を散布する。 [参考農薬] 1. アファーム乳剤、エスマルクDF、ロムダンフロアブルの 1,000 倍液、フェニックス顆粒水和剤 2,000 倍液、スピノエース顆粒水和剤 2,500～5,000 倍液のいずれかを散布する。	1. オオタバコガの平年の発生時期は5月下旬～10月下旬で、きくでは6月上旬及び8月中旬以降に食害が認められる。この時期にフェロモントラップの成虫発生消長を参考にして、系統の異なる薬剤をローテーションしながら散布する。 2. プレオ、アファーム、エスマルク、ロムダン、フェニックス、スピノエース、は蚕毒に特に注意する(特別指導事項 参照)。
ハガレセンチュウ	植 付 前	1. 土壌消毒する。 2. 被害葉を摘葉する。 [参考農薬] 1. ガードホープ液剤 3,000 倍液を 1 m ² 当り 2ℓ土壌灌注する。	1. 頂芽繁殖を行う。 2. 降雨時に多い。 3. 連作を避ける。 4. ガードホープは薬液灌注後、1 m²当り 10～15ℓ灌水する。
ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	植 付 前	1. 土壌線虫の項を参照する。	
コアオカスミカメ	5 月 ～ 9 月	1. 畦畔のヨモギなど雑草を刈り取る。	1. 畦畔のヨモギなどの雑草に寄生が多い。